

平成22年 6月21日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19320020

研究課題名（和文） 東アジアにおける文明の衝突と「天」の観念の変容

研究課題名（英文） The clash of civilizations in the modern East Asia
and the transfiguration of idea of 'Heaven(天)'

研究代表者

井上 厚史（INOUE ATSUSHI）

島根県立大学・総合政策学部・教授

研究者番号：90259565

研究成果の概要（和文）：

中国・韓国・日本の東アジア三国における西洋文明の急速な受用と近代化への着手は、「西洋の衝撃」と呼ばれるほど伝統思想に大きな変革を迫った。中でも、儒教や仏教・道教の中核的観念である「天」は、各国の政治思想状況によって独自の再解釈が盛んに実施されたが、今回の共同研究によって、一見多様に見える各国の再解釈も、「秩序を維持する天」から「変革を養護する天」への変容という点では共通しているということを確認することができた。

研究成果の概要（英文）：

'Western Impact' in the 19th century forced three East Asian nations, such as China, Korea and Japan, to transfigure the interpretations of traditional thoughts widely. Especially the idea of 'Heaven (天)' that was the common core idea of Confucianism, Buddhism and Taoism, was urgently tried to reinterpret in the each nation's original way. Through this collaboration on the theme: The clash of civilizations in the modern East Asia and the transfiguration of idea of 'Heaven(天)', we could clarify that the idea of Heaven was commonly transfigured to defend the big social change among three nations.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成19年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
平成20年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
平成21年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
年度			
年度			
総計	14,300,000	4,290,000	18,590,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：比較思想史、東アジア、天、文明の衝突、近代化、荻生徂徠、李退溪、康有為

1. 研究開始当初の背景

近年、中国、韓国、日本の東アジア地域における共同研究が活発化しているが、実際にそうしたシンポジウムに参加してみると、各国の研究者が各国内における議論の延長線

上で議論を展開し、なかなかテーマが深まらないというケースが頻繁に見受けられる。他方、「東アジア共同体論」等の議論も盛んだが、こちらは成果を急ぐあまり、重要な差異を見過ごしがちである。本研究テーマである

近代化に伴う伝統思想の変容や再生に関して言えば、「天」観念の変容という視点は、これまで重要であることは認識されていながらも、ほとんど研究されてこなかった分野であった。そのため、本研究グループでは、「天」観念変容の比較研究にあえて着手することにした。

2. 研究の目的

「天」観念は、儒教は言うまでもなく、仏教やキリスト教の各教義における最重要観念の一つである。また、「西洋の衝撃」と称される近代化によって最も大きな変容を強いられた観念でもある。

そこで、前近代から近代への通時的な変化を調査するとともに、西洋対東洋という比較文明論的視点も確保しながら、東アジアにおける近代化と天観念の変容の相関関係を、儒教、仏教、国学、キリスト教など、前近代を代表する思想を縦断しながら、「天」観念の変容をいろいろな角度から検討し、その変容の特質を明らかにすることを本研究の目的として設定した。

3. 研究の方法

中国、韓国、日本について、それぞれ前近代と近代に分類し、6つの領域についてそれぞれ2名ずつ研究発表を行い、国別の天観念の変容を追跡するとともに、同時代の東アジアを横断するパースペクティブを確保しながら、つねに東アジアにおける天観念の変容を考察できるよう、研究段階を二つに区分して計画を立案した。

すなわち、第一部を「前近代における天観念」を考察することとし、中国における儒教や仏教における天観念、韓国における儒教内部の性理学派と実学派の天観念、日本における古学派儒学と国学における天観念を分析し、各国における伝統的な天観念を抽出することに心がけた。第二部は「西洋文明との衝突により形成された新たな天観念」を考察することとし、中国における康有為・梁啓超および『天主実義』における天の新たな解釈、韓国における朴殷植・李柄憲などの儒教改革運動や東学党における天の新たな解釈、そして日本における福沢諭吉や西周などの啓蒙思想家および三宅雪嶺・長谷川如是閑などの思想家における天の新たな解釈を抽出し、その後、各国における前近代から近代への通時的変化、および同時代における共時的な三国の比較研究を通して、天観念変容を総合的に分析できるように工夫した。

4. 研究成果

三カ年の共同研究を通して、以下の3点を明らかにすることができたと考えている。

(1) 変革を養護する「天」

西洋の衝撃を受けたとき、中国は革命を擁護するものとして、韓国は日本帝国主義に対する抵抗を養護するものとして、「天」をとらえた。それに対し、日本は帝国主義的な侵略を養護するものとして「天」をとらえ、またそれは次第に近代天皇制と結合しながら、民衆に浸透していく日本主義を養護する観念としても機能した。以上のことを整理してみると、西洋の衝撃を受けた東アジア三国は、天地を統括し社会秩序を維持する伝統的な「天」ではなく、国内における革命や対外的な膨張主義など、さまざまな「変革」を養護するものとして「天」をとらえていたことがわかってきた。そして、こうした「天」の多様な再解釈は、＜侵略と自己正当化＞という近代史研究における新たな観点から、改めて研究する必要があると考える。

(2) 『易』の重要性

中国・韓国・日本の東アジア三国が西洋の衝撃を受けたとき、共通して『易』の新しい解釈に着手していることは、今回の共同研究で初めて明らかにできた。『易』といえば、古代中国や占いの書としてばかり認識されているが、東アジアの近代化における思想的実践として、『易』の再解釈があったことは、今後「近代化に伴う伝統思想の変容」という課題を検討する際に重要な視点となるだけでなく、東アジア文化圏における共通の思想基盤という観点からも考察されるべき重要なテーマと思われる。

(3) 共同研究のさらなる推進の必要性

今回の共同研究を通して、各国で行われている「天」観念の研究を参考にし、自国の研究を相対化することができた。実際に現地に出かけ、現地の研究者との対話を通して継続的に比較研究を行ってみると、いかに中国・韓国・日本における問題関心や研究方法が違うかを痛感させられるとともに、他国の研究者からの発表は、つねに自分自身の研究を顧みる貴重な機会となった。ただ、今回の共同研究では、まだ現状を認識できたという段階に留まっており、今後の更なる共同研究により、近代化と「天」観念変容に関する研究が一層深まっていくことを期待したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

① 井上厚史「李退溪の『朱子書節要』に関する一考察-「天」に関する命題を中心に-」、『退溪學論集』嶺南退溪学研究院、第18号、査読有、2009、29-57頁。

② 橋本敬司「「遇不遇」考-天から時へ-」、『中国研究集刊』、第48号、査読有、2009、75-95頁。

③木村純二「荻生徂徠における天について」、『人文社会論叢』人文社会篇、弘前大学人文学部、査読無、第23号、2010、1-21頁。

④于臣「梁啓超の国家論に関する一考察-国権、国民論を中心に-」、『横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅱ』（人文科学）、査読無、No.12、2010、1-11頁。

⑤井上厚史「韓日伝統思想と「天」観念の変容-「天」観念の変容に見られる韓日両国の近代ナショナリズムの特徴」、『政治思想研究』韓国政治思想学会、査読有、第14輯2号、2008、157-183頁。

⑥井上厚史「康有為の「天」観念と近代儒教の成立」、『北東アジア研究』島根県立大学北東アジア地域研究センター、査読有、第17号、2009、57-73頁。

〔学会発表〕(計16件)

①井上厚史「李退溪の『朱子書節要』の特徴-「天」に関する命題をめぐって-」、第39回退溪学研究発表会、2009年4月25日、韓国大邱郷校儒林会館大講堂。

②井上厚史「丁若鏞的「天」観念」、「伝統中国形上学的当代省思」国際学術検討会、2009年5月8日、台湾大学哲学系館。

③橋本敬司「『荀子』之天人観」、「伝統中国形上学的当代省思」国際学術検討会、2009年5月8日、台湾大学哲学系館。

④橋本敬司「王陽明的戒慎恐懼の良知」、国際中国哲学会、2009年7月11日、台湾輔仁大学。

⑤邢東風「關於仏教的「天」与世界図式」、「伝統中国形上学的当代省思」国際学術検討会、2009年5月8日、台湾大学哲学系館。

⑥井上厚史「關於李退溪对天解釈的研究」、「天、自然与空間」国際学術検討会、2008年9月25日、台湾大学文学院。

⑦井上厚史「韓日伝統思想と「天」観念の変容」、「東アジアの政治伝統と民族主義：過去、現在、未来」韓国政治思想学会・日本政治思想学会共同主催、2008年6月21日、韓国高麗大学100周年記念館。

⑧井上厚史「康有為の「天」観念と近代儒教の成立」、中日“近代北東アジアの啓蒙思想”国際学術検討会、2008年9月14日、中国浙江樹人大学東亜研究所。

⑨橋本敬司「阮籍的天和空間」、2008年9月25日、台湾大学文学院。

⑩吉田真樹「对平田篤胤思想中的「天」的概念的研究」、2008年9月25日、台湾大学文学院。

⑪吉田真樹「平田篤胤における「死」の空間-天・知・黄泉との関わりにおいて」、日本思想史学会平成20年大会、2008年9月14日、愛知教育大学。

⑫木村純二「对荻生徂徠的「天」的概念的研究」、2008年9月25日、台湾大学文学院。

⑬朴倍暎「丁若鏞における「天」観念とその倫理的意味について」、日本思想史学会平成20年大会、2008年9月14日、愛知教育大学。

⑭安部力「日中韓における洋学の伝来と「天」観念の変容」、日本思想史学会平成20年大会、2008年9月14日、愛知教育大学。

⑮橋本敬司「『荀子』の「天人の分」と「天人合一」」、広島哲学会、2007年11月3日、広島大学。

⑯長妻三佐雄「近代日本における職業倫理の問題」、韓国韓日関係史学会、2008年3月8日、ソウル市放送文化院。

〔図書〕(計3件)

①菅原光『西周の政治思想-規律・功利・信』、ベリかん社、2009、270頁。

②米原謙・長妻三佐雄編『ナショナリズムの時代精神』、萌書房、2009、283頁。

③吉田真樹『平田篤胤-靈魂のゆくえ』、講談社、2009、275頁。

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況(計◇件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井上 厚史 (INOUE ATSUSHI)

島根県立大学・総合政策学部・教授

研究者番号：90259565

(2) 研究分担者

橋本 敬司 (HASHIMOTO KEIJI)

広島大学大学院・文学研究科・准教授

研究者番号：40253124

邢 東風 (XING, Dongfeng)

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：50335882

朴 倍暎 (Park, Beayeong)

東京大学・人文社会系研究科・助教

研究者番号：70361558

木村純二 (KIMURA JUNJI)

弘前大学・人文学部・助教授

研究者番号：00345240

吉田真樹 (YOSHIDA MASAKI)

静岡県立大学・国際関係学部・講師

研究者番号：20381733

于臣 (Yu, Chen)

横浜国立大学・人間教育学部・講師

研究者番号：70433373

安部力 (ABE TSUTOMU)

北九州工業高等専門学校・総合科学科・講師

研究者番号：60435477

菅原光 (SUGAWARA HIKARU)

専修大学・法学部・准教授

研究者番号：90405481

長妻三佐雄 (NAGATSUMA MISAO)

大阪商業大学・公共経営学科・准教授

研究者番号：80399047

(3) 連携研究者

()

研究者番号：